

ジェネリックスキルPROGと育成の為の支援事例 勉強会

実施報告

- 日時:** 2015年2月24日(土) 10:00~11:30
- 場所:** 東海大学湘南キャンパス 8号館 3階 プロジェクト会議室
- 講師:** 株式会社リアセック 酒井 陽年
- 主催:** 東海大学キャリア支援センター、チャレンジセンター、To-Collabo推進室
- 講師:** 酒井陽年 (㈱リアセック キャリア教育推進グループ)
- 参加者:** 22名

発表内容

ジェネリックスキルPROGと育成の為の支援事例 勉強会と称して、下記3点のテーマで発表があった。

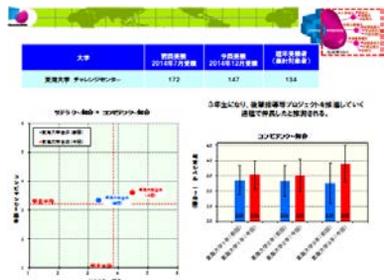
1つ目は、ジェネリックスキルが求められる背景として、経済産業省の「社会人基礎力」、文部科学省の「学士力」や、日本経済団体連合会の「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果」等により、主体性や、コミュニケーション能力等のジェネリックスキルの必要性について説明があった。

2つ目は、本学で使用したジェネリックスキル測定PROGの結果についての説明に続く。PROGは、株式会社リアセックと河合塾が共同開発したテストで、基礎力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から測定している。「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用や学び続ける力の素養をみるもの。「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるもの。約200校近くで導入しており、受験者数も10万人に上る。

本学でも、2009年に社会的な実践力を養うための具体的な教育目標・育成する力として「4つの力」を策定し、「自ら学ぶ力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の育成を行っているが、こういった能力育成に対して、学生の社会的実践力の現状を把握し、今後のプログラム改善につなげる為、外部アセスメントPROGを活用し試みた。

他キャンパスの結果全て掲載する事は、書面の制限上避けるが、チャレンジセンターでの結果を掲載する。

各学年において、コンピテンシーが伸びており、特に3年生においての開きが大きい。推測として、3年生になり、後輩指導等プロジェクトを推進していく過程で大きく伸ばしたと推測される。



3つ目は、このようなジェネリックスキルをどう伸ばしていくかの説明があった。

まずは、対人への興味喚起を促す支援が必要との事だった。ある大学のPBLの各授業回の振り返りアンケートを見ると、基礎力伸長者と停滞者には、アンケートコメントに違いがあった。伸長者は、授業前半のコメントを見ると、「ペア」、「相手」、「意見」等のコメントが多くあり、停滞者のコメントを見ると、「元気だ」、「抑揚」、「手振り」等、プレゼン技術のコメントが多くあった。基礎力伸長者は、授業前半では、対人に意識が向いている事がわかる。

又、振り返り学習の必要性についても発表があった。ジェネリックスキルを身につける為には、様々な体験を、一過性の刺激にとどめるのではなく、体験を内省し、成長を実感させ、次の行動へつなげていく必要があるという。

最後に、IRの観点として、基礎力伸長者と停滞者の学習習慣の違い等、様々な軸で分析し、学生の課題を明らかにする必要性についても話があった。

湘南校舎において、学生の支援に関して連携関係にある部署であるチャレンジセンターとキャリア支援センターの合同研修会を開催した。今年度両センターにおいて実施した「PROG（基礎力測定テスト）の検査結果とこのデータを如何に学生指導に活かしていくかについて講演をいただいた。

チャレンジセンターの学生は今回で3回目となるので、テスト慣れが生じないかないかどうか、問題の改編頻度など、PROGテストそのものの理解を深める質問もあり、また、コンピテンシーを伸ばす順番や工夫など、学生支援に関わる重要性や質に関する質疑など活発になされた。

